

尾張地域水循環再生行動計画について

行動計画作成の流れと特徴

- 県民、事業者、民間団体、行政の各主体で構成される尾張、西三河及び東三河地域の各水循環再生地域協議会において、全構成員が協力し、地域に根ざした水循環に関連する取組を「行動計画」として取りまとめた。
- 作成に当たっては、行動計画作業部会を地域ごとに4回ずつ開催し意見ヒヤリングを行うとともに、座長によるアドバイスも反映して誰にもわかりやすく親しみやすい表現となるよう努めた。
- 地域における水循環に関する特徴と課題を具体化するため、尾張地域を河川流域を基本単位として「日光川等流域」、「木曾川・庄内川等流域」、「天白川・山崎川等流域」及び「伊勢湾沿岸域(知多半島等)」の4つに細分化し、細分化した流域ごとに水環境の「特徴と課題」と「流域別目標」を示した。
- 行動計画に掲げた取組のうち、「流域における施策横断的取組」及び「連携・協働による新たな取組」については内容をシート化し、それぞれ「アクション・シート」及び「パートナーシッププロジェクト」として示した。
- アクション・シート及びパートナーシッププロジェクトは毎年追加して行動計画の充実を図ることとした。
- 行動計画を着実に進めていくため新たに「行動計画フォローアップチーム(仮称)」を設置し、各構成員の取組状況の把握や情報共有等を進めることとした。
- 行動計画の期間は水循環再生基本構想と整合を図り10年とした。なお、水循環に係る研究成果などを行動計画に的確に反映させるため、20年度を初年度とし3年毎に目標達成状況の中間評価や目標の見直しを行うこととした。

○健全な水循環再生のため、流域の上流から下流までが一体となって水循環再生の取組を推進することが必要。
○地域の実情に沿った具体的な課題・目標・取組等を「行動計画」として取りまとめる。

- 1 自然・社会的特性 → 地域の地形、土地利用状況、産業構成などを記述
- 2 環境特性 → 水質、水・水辺の利用状況、水文化などを記述

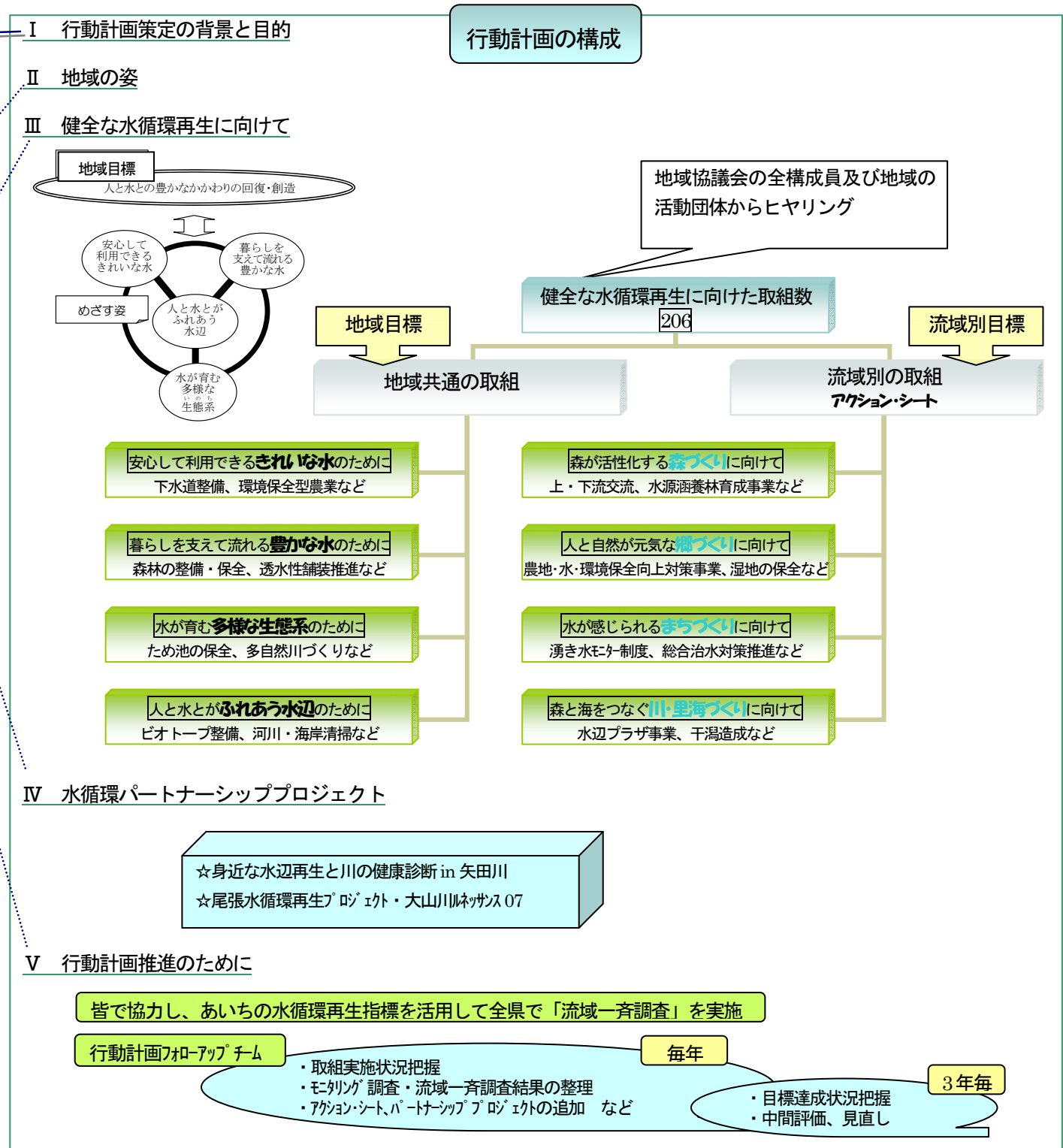
- 1 地域目標(地域に共通した目標)
- 2 地域共通の取組 } 森林保全、下水道整備など地域に共通した取組を、水循環のめざす姿で整理して記述
- 3 流域別目標(流域ごとに設定)
- 4 流域別の取組(アクション・シート) } 「森づくり」、「郷づくり」などの施策横断的な取組を具体的に記述

<アクション・シート数>

森づくり	郷づくり	まちづくり	川・里海づくり	計
7	6	14	33	60

水質の浄化や水量の確保、水辺の整備・保全など健全な水循環の再生につながるテーマで、地域のニーズと特性にあった協働・連携の輪が広がるモデル的事業

- 1 各主体(県民・事業者・民間団体・行政)に期待される役割を記述
- 2 行動計画の推進に向けて
 - (1) 取組の進行管理
 - ・計画(Plan)、実行(Do)、点検(Check)、見直し(Action)のPDCAサイクルにより効果的に進行管理
 - (2) 取組実施状況の点検、計画の見直し → 「行動計画フォローアップチーム(仮称)」が窓口
 - ・行動計画に掲げた取組の中から指標として適切な項目を選定し、効果的に取組の実施状況を把握
 - ・県民・事業者・民間団体・行政が協力して「あいちの水循環再生指標」を活用し、モニタリング調査や流域内で調査日を定めて行う「流域一斉調査」を経年的に実施
 - (3) 情報の共有と発信
 - ・取組実施状況の点検結果等は、ホームページなどから発信し情報を共有化



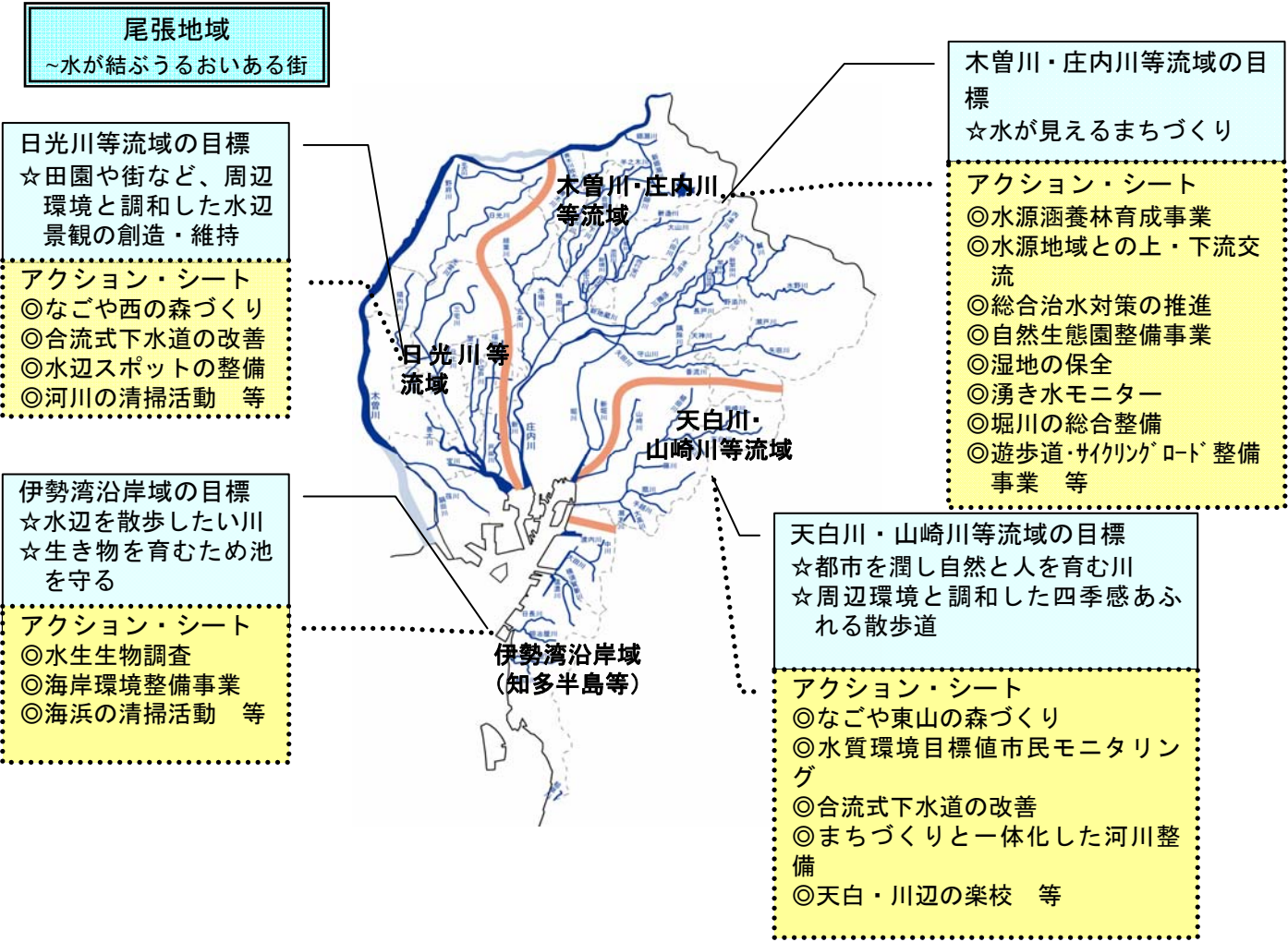
IV 水循環パートナーシッププロジェクト

☆身近な水辺再生と川の健康診断 in 矢田川
☆尾張水循環再生プロジェクト・大山川ネットワーク07

V 行動計画推進のために

- 皆で協力し、あいちの水循環再生指標を活用して全県で「流域一斉調査」を実施
- 行動計画フォローアップチーム
 - ・取組実施状況把握
 - ・モニタリング調査・流域一斉調査結果の整理
 - ・アクションシート、パートナーシッププロジェクトの追加 など
- 毎年
 - ・目標達成状況把握
 - ・中間評価、見直し
- 3年毎

流域別目標と水循環アクション・シート等の概要



水循環パートナーシッププロジェクト

- 身近な水辺再生と川の健康診断 in 矢田川 <NPO 法人 土岐川・庄内川サポートセンター>
都市のオアシスとなっている矢田川において、流域の人たちと協力して矢田川の河川環境を向上させるとともに、川の健康診断を行って、水に親しむ人の輪を広げる。
- 尾張水循環再生プロジェクト・大山川ルネッサンス07 <大山川を愛する市民の会>
身近な川である大山川を取り巻く、自然、歴史、文化等を知ることにより、健全な水の循環システムを再認識し、私たち一人ひとりのライフスタイルを見直すなど、水環境に配慮した暮らし方を考えるきっかけを作る。